

使い道は限定的「こども未来基金」



令和 4 年度生駒市一般会計補正予算(第 6 回)

9 月定例会に「こども未来基金条例」を制定し、令和 3 年度決算剰余金 3 1 億円のうち 8 億円を同基金に積み立てる条例案と補正予算案が提出されました。コロナ禍で出生数も合計特殊出生率も大きく落ち込み、少子化対策として子育て環境の推進と教育環境の整備の資金に充てたいとの説明でしたが、次のような財政規律上の問題があり、いったん繰越金に置いておく修正案を提出したものの、賛成少数で否決。原案が可決しました。

■使い道は決まっていない

今年度に設置した「子ども未来会議」の中で少子化対策を考えているとのことですが、計画はおろか、どんな事業をやるのかもまだ結論は出ていないとのこと。市長は 9 月定例会前の記者会見で「例えば医療費、給食費等の経済的不安を解消するための財政的支援、待機児童の解消、先進的な教育環境、発達障がいや学習障がいへの対応等を考えています。」と答えていますが、これらの事業を、基金を用いて実施することには地方財政法上、無理があります。

■経常経費は基金で賄うべきではない

地方財政法は、積立金（基金）の処分の条件として、（１）経済情勢が厳しく財源が著しく不足する場合、（２）災害による減収の財源にあてる場合、（３）緊急的大規模な土木、建設事業の経費にあてる場合、（４）長期的な財源育成のための財産取得の財源とする場合、（５）繰上げ償還の 5 つに限っています。自治体は、毎年の収入の枠の中で予算を組むのが基本で、基金は財源が不足した場合の緊急措置的財源です。市長が示した事業は一過性のものではなく、毎年行われる事業の経費として予

■補正予算案(第6回)の原案の採決結果

※吉村副議長は議決に加わりません。

賛成	福中・白本（以上 凛翔絆）浜田・竹内（以上 日本共産党）成田・恵比須・山下（以上 生駒市議会公明党）梶井・中尾・中嶋（以上 緑生）吉波（市民ネット）山田（国民民主党）上村（立憲民主党）伊木・沢田・片山・神山・加藤（以上 無会派）
反対	松本・改正（以上 大樹）塩見（無会派）

算に計上されるべきもので、基金で行う性質のものではありません。基金にすることで却って使い勝手を悪くしかねません。少子化対策の必要性は十分理解しますが、令和 3 年度の決算剰余金は令和 5 年度末までに積み立てればよく(地方財政法第 7 条)、子ども未来会議で具体的な少子化対策事業が固まり、基金創設の必要性が認められてからでも遅くはありません。基金条例は可決しましたが、今後、事業の良し悪しに加えて基金の使い方が適正かどうか可決した議会の責任として監視していかなければなりません。

大丈夫？生駒市の生活保護行政



生活保護業務における遡及年金の取扱い誤り

平成 19 年に発覚した「消えた年金記録問題」で、年金受給権があった生活保護の被保護者が支給を受けた 5 年以上前の遡及年金分については生活保護費返還請求の対象外と同年に厚生労働省から事務連絡があったにもかかわらず、市はその取扱いを誤り 3 件で合計 850 万円を返還させていたとがわかり、9 月 29 日の厚生消防委員会で説明と謝罪がありました。

■ミス回避の機会は何度あった

今回の過誤返還が判明したのは、昨年度の厚生消防委員会の調査で社会福祉協議会の専門職にヒアリングした際、3 件中 1 件の問題を指摘され、市に事案の調査を求めたのがきっかけです。今年 4 月の市からの調査報告は、消えた年金記録問題に由来するもので市の事務に問題はないというものでしたが、実際はそうではなかったということです。そもそも生活保護の開始時に申請者の職歴を見れば年金受給権があると想定できたはず。そしてその後、年金受給権があるとわかった時に事

務連絡を見落としていたとしても、地方自治法第 236 条の 5 年の消滅時効を知っていれば（公務員がなぜこれを知らなかった？）ミスを回避できたし、266 万円もの利子支払いは不要だったはず。

■支援の現場の声を聴く行政に

当事者は問題発覚直前まで月々の年金の中から保護費を返還し続けておられましたが、市が福祉の現場の支援員の訴えに耳を傾け、委員会の調査報告書に不満をこぼす前に事案に真摯に向き合っていれば、生活の困窮から少しでも早く解放されたはずで、あってはならないミスです。



市政を語ろう！

サロン ド し お み

茶論・de・403

日時：12月 11日(日)
13:30~15:30

場所：生駒市図書館 第 3 研修室

どなたでもご参加いただけます。（参加費無料）新型コロナウイルス感染症対応のため、当日、ご連絡先のご記入をお願いしております。ご協力をお願いいたします。

編集後記

●長年議長を務められた中谷尚敬議員がご逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。●今号それぞれの記事に QR コードを付しています。スマートフォンをお持ちの方は、こちらから塩見のブログ「塩見まきこの活動日記」で詳細をお知りいただけます。●行政を追及することが多い塩見ですが、本来の議員の役目を果たすと、当然こうなります。市長に追随するだけなら 2 つの選挙をする必要はありません。塩見 牧子



し お み

“まっすぐ”が通る生駒に！

塩見まきこ

市議会 newsletter 2022 年／秋号



塩見まきこのプロモーションビデオ(PV)
「“まっすぐ”が通る生駒に！」ができました。



塩見まきこの市政にかける想いが 90 秒でわかる P V が完成しました。生駒らしいまちなみも随所に見られます。上の QR コードをお読み取りください。チャンネル登録もお願いいたします。



Contents

- Page2 3セク会社の経営悪化のツケは市民に
市職員がいこま市民パワー(株)の業務をタダ働き
- Page3 容量市場 2024 年問題 いこま市民パワー(株)は乗り切れるのか？
生駒モデルは癒着・中抜き？
少数意見は排除？
- Page4 使い道は限定的「こども未来基金」
大丈夫？生駒市の生活保護行政
茶論・de・403 / 編集後記

塩見牧子（しおみまきこ） 1965 年 3 月 8 日大阪生まれ。1972 年に生駒に移り住む。生駒東小学校、緑ヶ丘中学校、京都女子高等学校、同大学卒業。同大学大学院文学研究科修了。会社員、学校図書館司書、中・高非常勤講師を経て 2007 年 4 月、生駒市議会議員に初当選。①将来世代に元気なまちのバトンを渡す、②誰もが生きづらさを感じることなく暮らせる共生社会をつくる、③フェアで市民本位の市政運営を築くための取組みやしくみづくりの提案を活動公約としています。



blog



Facebook



Twitter



ご意見ご要望フォーム